

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年10月号) & アジア・新興国FXフラッシュ



◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは9月30日(木) 9:00現在
※休日の実績は前営業日

| | | 9月29日現在 (矢印は8月末比) | 10月の予想 |
|--------------------------------|-------------------------|----------------------|-------------------|
| USD | ドル・円 (円) | ↗ 111.96 | ↗ 108.50 ~ 112.50 |
| | 年内テーパリング開始を見据え、ドル円はじり高 | | |
| EUR | ユーロ・ドル (ドル) | ↘ 1.160 | ↘ 1.14 ~ 1.20 |
| | ユーロ・円 (円) | ↘ 129.85 | ↗ 127.00 ~ 134.00 |
| 政治不透明感とECBの相対的なハト派スタンスからドル高で下落 | | | |
| GBP | ポンド・ドル (ドル) | ↘ 1.343 | ↘ 1.32 ~ 1.36 |
| | ポンド・円 (円) | ↘ 150.33 | ⇒ 148.00 ~ 152.00 |
| 景気鈍化からドル買いで下落しやすい | | | |
| AUD NZD | 豪ドル・円 (円) | ↘ 80.35 | ⇒ 78.50 ~ 82.00 |
| | NZドル・円 (円) | ↗ 76.89 | ↗ 75.50 ~ 78.50 |
| 円安で豪ドル円は下値が堅く、NZドル円は利上げ観測で上昇 | | | |
| 株式 相場 | 日経平均 (円) | ↗ 29,544 | ⇒ 28,800 ~ 30,800 |
| | 大規模の改革なしで上値が重い一方、下値も限定的 | | |
| | NYダウ (ドル) | ↘ 34,391 | ⇒ 33,500 ~ 35,500 |
| 債務上限懸念が重しも回避される見通しでダウは横ばい | | | |
| 長期 金利 | 日本 (%) | ↗ 0.078 | ⇒ 0.00 ~ 0.08 |
| | 米金利に追随しやすいが、落ち着くと予想 | | |
| | 米国 (%) | ↗ 1.517 | ↗ 1.40 ~ 1.60 |
| テーパリング開始、利上げ前倒し観測から一段と上昇 | | | |

◆ 今月の注目ポイント

米債務上限問題を巡る議会動向に注目

| テーマ | 注目度 | 今月の注目ポイント |
|----------|-----|---|
| 景気 動向 | ○ | 【FRB金融政策は景気見極めへ】9月FOMCでは11月会合でのテーパリングアナウンスが示唆され、当面は雇用の回復状況やインフレ動向を見極める時間帯。ドットチャートでは22年の利上げ開始が示されたことで米金利は大きく上昇したが、今月は金利の落ち着きどころを探る展開となろう。デルタ株の感染拡大もピークアウト傾向となっており、特に国内では緊急事態宣言の全面解除から景気回復への期待感も高まりやすい。 |
| 金融 政策 | | |
| 政治 | ◎ | 【各国で政治イベント続く】米国では引き続き議会動向が注目。特に債務上限問題を巡ってはイエレン財務長官が18日にも手元資金が枯渇すると警鐘を鳴らしており、協議が難航すればリスクが高まる。日本では新政権の元での新たな経済対策の内容が注目される。 |
| その他 | ◎ | 【中国発リスク】中国恒大集団の利払いは年末にかけて散発的に控えており、今後もデフォルトリスクは燻る。また一部国内で電力不足との報道もあり、マクロ面に影響が出ればリスクオフとなる可能性も孕む。 |

◆ アジア通貨見通し

| | | | |
|-------|---------------|-------|---------------|
| 人民元・円 | ⇒ 17.0 ~ 17.5 | ルピー・円 | ⇒ 1.48 ~ 1.52 |
| バーツ・円 | ↗ 3.15 ~ 3.40 | ウォン・円 | ↘ 9.10 ~ 9.50 |
| ルピア・円 | ⇒ 0.74 ~ 0.79 | | |

◆ 今月の重要日程

| | | | | | |
|--------|---|----------|--------|---|--------------|
| 1日(金) | 米 | 9月ISM製造業 | 21日(木) | 日 | 衆院議員任期満了 |
| 5日(火) | 豪 | RBA理事会 | 22日(金) | 日 | 9月CPI |
| 8日(金) | 米 | 9月雇用統計 | 22日(金) | 欧 | 10月PMI |
| 13日(水) | 米 | 9月CPI | 28日(木) | 日 | 日銀金融政策決定会合 |
| 15日(金) | 米 | 9月小売売上高 | 28日(木) | 欧 | ECB理事会<結果発表> |
| 18日(月) | 中 | 21/3QGDP | 28日(木) | 米 | 21/3QGDP速報値 |

◎注意事項

本資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年10月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

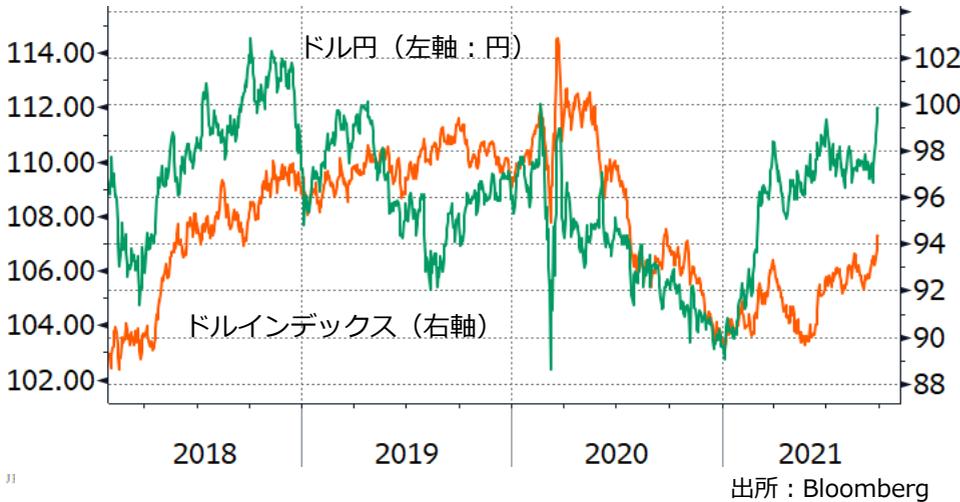
ドル 円

米ドル円



ドル円は上昇

108.50 - 112.50円



FRBの強気な利上げ見通しを織り込む過程で、ドル円は底堅く推移

9月のドル円相場は、前半に110円を挟んだもみ合いが続いた後、中国・恒大集団を巡る不透明感から一時的に109円ちょうど試す場面もあったものの、タカ派的なFOMC結果を受けた米国金利の上昇を背景に、月後半は右肩上がりの上昇となった。9/27に7月以来の111円台を回復し、9/30には昨年3月以来の112円台をつけた。国内で大きな注目を集めた自民党総裁選は無難な結果と受け止められ、為替相場への影響は限定的であった。

9月のFOMCでは年内テーパリング開始がほぼ確実となったうえ、FRBメンバーの政策見通しであるドットチャートが更新され、2022年利上げ開始が中央値となったほか、2023年・2024年にも3回ずつの利上げが示唆される、タカ派的な内容となった。同時に英国中銀もタカ派的な姿勢を示したことから債券市場が大きく反応し、米長期金利は一時1.5%を回復する等、世界的に金利上昇地合いとなった。FRBが示した利上げ見通しを金利市場は完全に織り込み切れておらず、米金利上昇とUSD高を背景に、ドル円相場は当面、底堅い展開となるだろう。

一方、恒大集団を巡る懸念や米国政府のデフォルトまたは政府閉鎖懸念は引き続き市場センチメントの重石となりやすく、株価が下落する局面ではドル円も一時的に下落する余地はあるだろう。

ユ ー ロ

ユーロドル



ユーロドルは下落

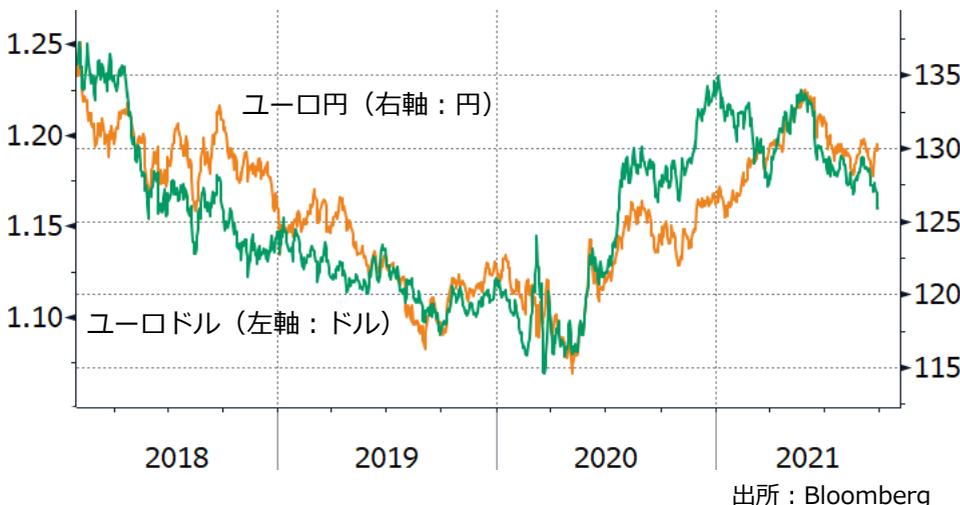
1.14 - 1.20ドル

ユーロ円



ユーロ円は上昇

127.00 - 134.00円



世界中銀が金融正常化に向かうなか、日銀の出遅れが意識され、JPY独歩安へ

9月のEUR相場は、ECB高官のタカ派的な発言から対USD・対JPYともに上昇して始まった。ECB理事会ではパンデミック緊急資産購入プログラム (PEPP) の縮小が公表されたが、ラガルド総裁があくまでも政策の微調整であり、テーパリングではないと強調したことからEUR高は一服、再び軟調地合いとなった。FOMC以降のUSD高地合いのなかでEURは一段安となり、対USDでの年初来安値を更新したが、この局面では主要通貨の中でのJPYの独歩安が顕著となり、対JPYではEURが切り返して上昇する展開となった。

注目の独総選挙は大きな波乱なく通過したが、連立交渉には相応の時間を要する見込みであり、政治的不透明感は拭え切れない状況にある。FRBのタカ派スタンスを市場織り込む過程では、主要3通貨の強弱はUSD > EUR > JPYの順となりやすく、EUR相場は引き続き、対USDでは下落、対JPYでは上昇、という地合いが継続すると予想する。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年10月号)

& アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 今月の相場見通し② 為替 (ポンド・豪ドル・NZドル)

ポンド



出所：Bloomberg

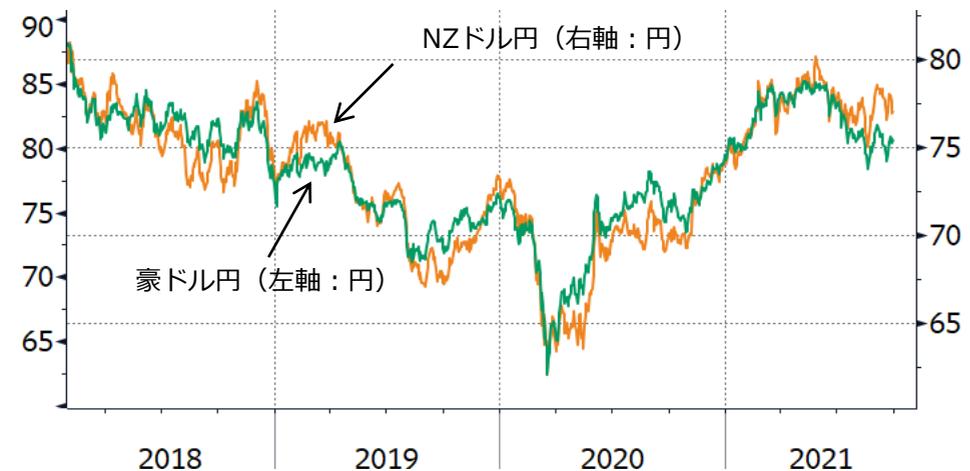
| | | |
|-------|----------|-------------------------|
| ポンドドル | ポンドドルは下落 | 1.32- 1.36ドル |
| ポンド円 | ポンド円は横ばい | 148.00 - 152.00円 |

ポンドドルは下落、ポンド円は横ばいを予想

8月のポンドは対ドル、対円ともに下落となった。月初に弱い米雇用統計によるドル安でポンドドルが上昇したが、ジョンソン英首相の増税案が発表されると、ポンドが売られた。その後、もみ合いを経て株安によるリスクオフモードが強まり、ドル買いからポンドドルは下落した。23日にBOEが高インフレ見通しによる利上げを示唆したことを受け、ポンドドルは反発した局面もあったが、BOE高官がインフレに急いで対処する必要がないとの姿勢を示すと、ポンドドルは1.35手前まで下落した。

9月のポンドは対ドル、引き続き下落を予想。コロナとの共生を選んだ英国では新規感染者が高い水準で推移しているものの、重症者数が抑えられている。しかし9月PMIは製造業・非製造業とも低下し、景気改善が鈍化の兆しを示している。深刻な人手不足も足元経済回復のボトルネックになるかもしれない。このような状況のもと、英中銀はタカ派姿勢を強めたものの、行動に移すまで時間がかかりそう。一方、FOMCで早期の利上げが示唆されて以来、米金利が上昇している中、ポンドドルは下落しやすいだろう。円も売られやすく対円ではもみ合う展開になると予想。

豪ドル・NZドル



出所：Bloomberg

| | | |
|-------|----------|-----------------------|
| 豪ドル円 | 豪ドル円は横ばい | 78.50 - 82.00円 |
| NZドル円 | NZドル円は上昇 | 75.50 - 78.50円 |

金融政策を材料に対円で豪ドルはもみ合い、NZドルは上昇を予想

9月のオセアニア通貨は豪州、NZでのコロナ感染動向の好転から月初に上昇したものの、その後は中国・恒大のデフォルト懸念、米国金利上昇・インフレ懸念に伴う株安といったリスク回避地合いのなかで豪ドル円、NZドル円は下落基調となった。

中国経済にリスク要因があるものの、今月の豪ドル円相場は横ばい、NZドル円相場は上昇と予想する。豪中銀は9月会合で先のテーバリングスケジュールを延期、利上げは24年よりも前には行われないとの姿勢を改めて示しハト派姿勢を強める。米国を中心に金融緩和縮小の動きもみられる中で豪ドルの上値は重いとみるが、同時に円安も進行し豪ドル円は下値も堅いとみる。一方、NZ中銀は前回会合で見送った利上げを10月会合で実施するとみられる。リスクセンチメントも改善に向かう中でNZドルは対円で上昇を見込む。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

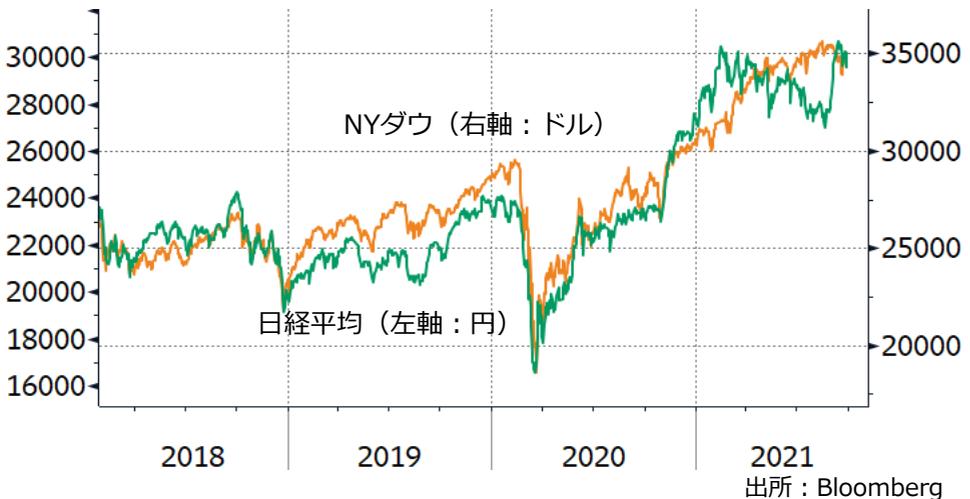
◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年10月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

株式見通し



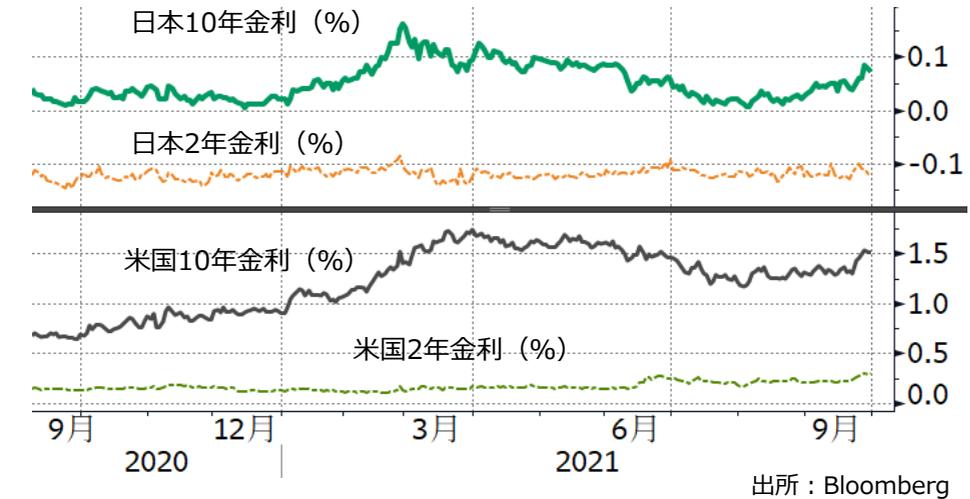
日経平均 ⇨ 日経平均は横ばい **28,800 - 30,800円**

日経平均は横ばいを予想
9月の日本株は、月初に菅首相が総裁選への不出馬を表明し、新政権への期待が高まったことから一時バブル期来の最高値を更新も、月末にかけて中国不動産大手のデフォルト懸念やタカ派的なFOMCを受けた米金利の上昇を受け大台の3万円を割り込んだ。今月の日経平均は横ばいを予想。新政権誕生を受け当面期待感は続きやすいものの、大規模な改革は見込みづらく一段高とはなりづらい。一方緊急事態宣言の全面解除は景気面から株価をサポートしよう。

NYダウ ⇨ ダウは横ばい **33,500 - 35,500ドル**

NYダウは横ばいを予想
FRBによる早期の利上げが意識される中で米金利は上昇しやすく、株価は不安定化しやすい。また債務上限問題を巡って議会協議は難航しており、18日も手元資金の枯渇が懸念される中では株価の重石となりやすい。一方で米国債のデフォルトはリスクが大きすぎることから、最終的には回避されると見られ、米金利の落ち着きとともに株価も底堅さを取り戻すものと見る。

長期金利見通し



日本国債10年 ⇨ 金利は横ばい **0.00 - 0.08%**

日本国債は金利横ばいを予想
9月の円金利は米金利の上昇や自民党総裁選への思惑から3か月ぶりの水準に上昇した。10月の円金利は横ばいを予想。米国では債務上限問題やタカ派的なFOMCを受け金利が上昇基調となっており、円金利にも上昇圧力がかかりやすい。一方で債務上限問題がまともれば米金利は徐々に落ち着きどころを探るものと予想され、円金利は横ばい圏で落ち着くものと見る。

米国債10年 ⇨ 金利は上昇 **1.40 - 1.60%**

米国債は金利上昇を予想。
9月の米金利は月の後半に大きく上昇。FOMCがタカ派的な内容となったことや、欧州金利の上昇、米債務上限問題を巡る協議の難航が寄与した。10月の米金利も債務上限問題を巡る協議の難航が予想されることから引き続き上昇圧力がかかりやすいものと見る。一方で、最終的にはデフォルトは回避されるものと見られることから、FRBの利上げ織り込みも進めば徐々に金利も落ち着きどころを探るものと見る。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年10月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨 (アジア)

| | | 9/29 | | 9月の相場推移 | | 10月の予想 | 解説 |
|--------|--------|--------|---|---------------|---|---------------|---|
| 中国 | 人民元/円 | 17.29 | ↗ | 16.87~17.28 | → | 17.00~17.50 | 9月のドル人民元相場は狭いレンジ内でもみ合いが続いた。ドル高主導で上値を試すも人民元は底堅く推移。今月も動きは出づらいとみるが、中国経済減速と米FRBの緩和縮小の環境を受けて緩やかなドル高元安地合いとみる。こうした局面では円安進行で人民元円は底堅い動きとなりやすい。元安リスクとして恒大デフォルト問題の不動産業界全体・金融システムへの波及には注意。 |
| | ドル/人民元 | 6.471 | ↗ | 6.430~6.476 | ↗ | 6.42~6.55 | |
| タイ | バーツ/円 | 3.297 | ↘ | 3.266~3.421 | ↗ | 3.15~3.40 | 9月のバーツ相場は対ドルで一方向のバーツ安が進んだ。感染動向はピークアウトに向かっているが、観光客受入再開延期や中国経済の減速は通貨安要因。米国の金融緩和縮小によるドル高地合いの中でドルバーツは1ドル34バーツに迫った。9/29の金融政策決定会合でタイ中銀は政策金利据置を決定。景気回復が遅れる中で当面緩和環境が続く。10月のバーツ相場も弱含みを予想。 |
| | ドル/バーツ | 33.86 | ↗ | 32.22~33.91 | ↗ | 33.0~35.0 | |
| インドネシア | ルピア/円 | 0.784 | ↗ | 0.766~0.783 | → | 0.74~0.79 | 10月のドルルピアは上昇(ルピア安)を予想。足元では感染者数の急減を受けてインドネシア政府は徐々に制限を解除し、経済活動の再開に力を入れようとしている。9月21日にインドネシア中銀は政策金利を据え置き、景気回復支援のため金融緩和に前向きなスタンスを示した。国債購入が予想されるが、米FRBのテーパリング時期に重なる可能性が高く、ドル買いルピア売りの圧力が強いだろう。 |
| | ドル/ルピア | 14,293 | ↗ | 14,182~14,323 | ↗ | 14,200~14,550 | |
| インド | ルピー/円 | 1.508 | ↘ | 1.479~1.512 | → | 1.48~1.52 | 10月のドルルピー相場は上昇(ルピー安)を予想。米FRBが11月にテーパリングを発表する可能性が高く、ドル買いが進行中。一方、インド中銀高官が足元のインフレを重大視せず、経済成長を強調する姿勢を締めた。このような金融政策の違いからドルルピーは上昇しやすいだろう。いままで連続高値を更新したインド株が海外資金を引き寄せたが、巻き戻しの時のルピー売りも重荷になりそう。 |
| | ドル/ルピー | 74.15 | ↗ | 72.92~74.26 | ↗ | 73.65~75.00 | |
| 韓国 | ウォン/円 | 9.474 | ↘ | 9.209~9.538 | ↘ | 9.10~9.50 | 9月のウォン相場は対ドル、対円ともに下落。ドルウォン相場は足元で昨年9月以来の安値圏の動きとなっている。米国緩和縮小の動きによるドル高地合いのなかで中国の経済減速と恒大デフォルトリスクが意識され、アジア通貨の中でも比較的弱さが目立つ動き。引き続きウォン相場は中国リスクの影響を受けやすく、目先弱含みを予想。10/12の金融政策委員会で追加利上げあるか注目。 |
| | ドル/ウォン | 1,182 | ↗ | 1,154~1,189 | ↗ | 1,160~1,210 | |

◎注意事項
 本資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、本資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

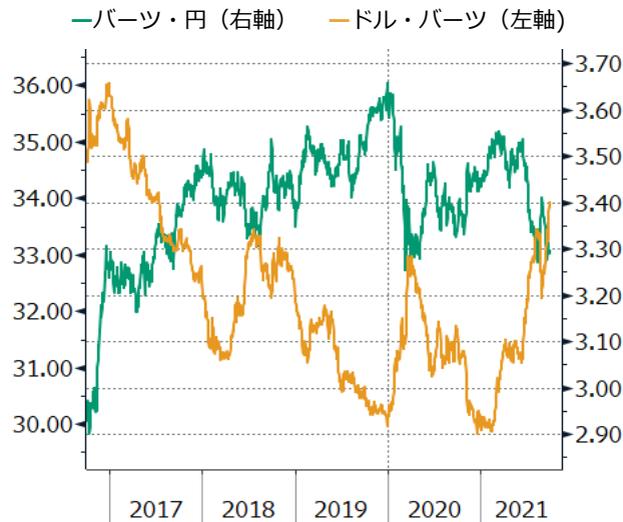
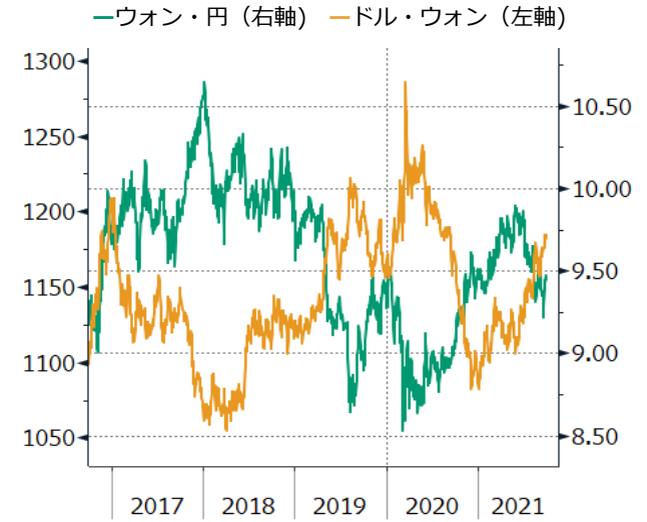
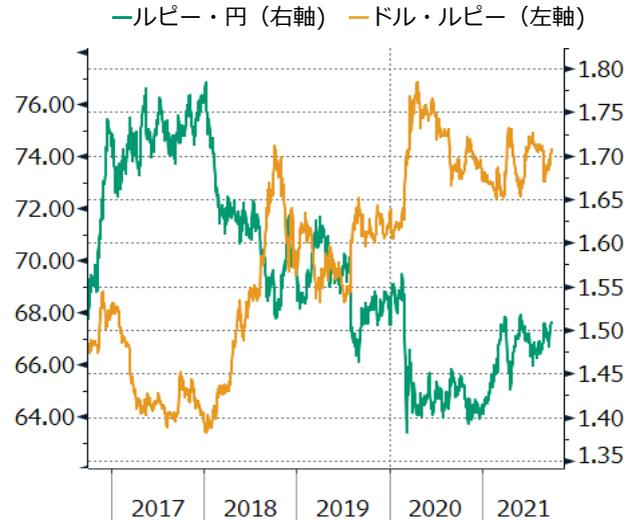
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年10月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 新興国通貨チャート



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年10月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 年間為替見通し

| | | 2021年 | | 2022年 | | ポイント |
|--------|-----|------------------|------------------|------------------|------------------|---|
| | | 10~12月 | 1~3月 | 4~6月 | 7~9月 | |
| ドル円 | レンジ | 109~115 | 110~115 | 110~120 | 108~118 | FRBの早期テーパリング&利上げ前倒し期待からドル円相場は底堅い推移を予想する。 |
| | 期末値 | 112 | 113 | 115 | 113 | |
| ユーロドル | レンジ | 1.12~1.19 | 1.10~1.18 | 1.10~1.16 | 1.10~1.18 | ECBの戦略見直しにより、FRBと比較して緩和は長期化する見込み。独メルケル首相の引退や仏大統領選等、政治リスクもユーロの重石となり、ユーロ安トレンドが継続する。 |
| | 期末値 | 1.14 | 1.13 | 1.12 | 1.13 | |
| ユーロ円 | レンジ | 124~133 | 124~133 | 122~132 | 120~135 | |
| | 期末値 | 128 | 128 | 128 | 127 | |
| ポンドドル | レンジ | 1.32~1.36 | 1.30~1.34 | 1.29~1.40 | 1.28~1.38 | 主要国のワクチン接種普及に伴い、足元の英国の高い普及率の優位性が薄れることに加え、英中銀の金融引き締めへの慎重な姿勢もポンドの上値を抑えたとみる。 |
| | 期末値 | 1.33 | 1.31 | 1.34 | 1.33 | |
| ポンド円 | レンジ | 148~152 | 144~158 | 143~157 | 145~158 | |
| | 期末値 | 151 | 149 | 154 | 150 | |
| ドル人民元 | レンジ | 6.35~6.70 | 6.40~6.80 | 6.35~6.80 | 6.30~6.70 | 中国経済減速と米金融緩和縮小を背景に当面は緩やかなドル高元安とみる。来年後半にかけてはドル高一服と景気支援もあり再度元高基調に転換と予想。 |
| | 期末値 | 6.50 | 6.60 | 6.50 | 6.45 | |
| 人民元円 | レンジ | 16.4~17.5 | 16.5~17.6 | 16.8~18.2 | 16.7~18.1 | |
| | 期末値 | 17.2 | 17.1 | 17.7 | 17.5 | |
| 豪ドル円 | レンジ | 78.0~83.0 | 77.0~84.0 | 80.0~86.0 | 82.0~88.0 | 中国リスクや中銀のハト派姿勢で当面の上値重い、グローバル経済回復により来年央までは上昇とみる |
| | 期末値 | 81.0 | 82.0 | 84.0 | 85.0 | |
| タイバーツ円 | レンジ | 3.15~3.55 | 3.30~3.70 | 3.30~3.70 | 3.20~3.60 | 感染者数の一旦のピークアウトから持ち直しも、当面のタイ経済は弱含みが警戒され上値重い |
| | 期末値 | 3.40 | 3.50 | 3.50 | 3.40 | |

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年10月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ マーケットカレンダー

| | 日本 | 米国 | その他 | | 日本 | 米国 | その他 |
|----------|---|-----------------------------|------------------------------|----------|---------------------------------|----------------------------------|--------------------------------|
| 10/1(金) | 8月労働力調査 | 8月個人所得・消費支出 9月ISM製造業景況指数 | | 10/18(月) | | | (中) 7-9月期GDP (中) 9月生産・小売・投資 |
| 10/4(月) | | 8月製造業受注 | | 10/19(火) | 20年債入札 | 9月住宅着工・許可件数 | |
| 10/5(火) | 10年債入札 | 8月貿易収支 9月ISM非製造業景況指数 | (豪) 準備銀行理事会 | 10/20(水) | 9月貿易統計 | 20年債入札 米地区連銀経済報告 | |
| 10/6(水) | | 9月ADP雇用統計 | | 10/21(木) | | 10月フィラデルフィア連銀製造業景況指数 9月中古住宅販売 | |
| 10/7(木) | | | | 10/22(金) | 9月消費者物価指数 | | (欧) 10月PMI (速報値) |
| 10/8(金) | 8月家計調査 8月毎月勤労統計 (速報) 9月景気ウォッチャー調査 | 9月雇用統計 | | 10/25(月) | | | (独) 10月IFO企業景況感指数 |
| 10/11(月) | | (コロンブス記念日) | | 10/26(火) | | 10月消費者信頼感指数 2年債入札 9月新築住宅販売 | |
| 10/12(火) | 30年債入札 9月企業物価指数 | 10年債入札 3年債入札 | (中) 9月貿易統計 (独) 10月ZEW景気指数 | 10/27(水) | 2年債入札 | 5年債入札 | |
| 10/13(水) | 8月機械受注 | 30年債入札 9月CPI FOMC議事要旨 | | 10/28(木) | 黒田日銀総裁定例会見 日銀金融政策決定会合 (結果発表) | 7-9月期GDP (速報値) 7年債入札 | (欧) ECB定例理事会 |
| 10/14(木) | 5年債入札 | 9月PPI | (中) 9月CPI | 10/29(金) | 9月鉱工業生産 9月住宅着工件数 | 9月個人所得・消費支出 | |
| 10/15(金) | | 10月NY連銀製造業景況指数 9月小売売上高 | G20財務相・中央銀行総裁会合(ワシントンDC) | 9月労働力調査 | | | (中) 10月PMI |
| | | | | 10/31(日) | | | |



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年10月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

中国の動向-主要トピックス①

りそな銀行上海駐在員事務所

【8/27~9/2】

◎ 8月のPMI 50.1 5カ月連続下落

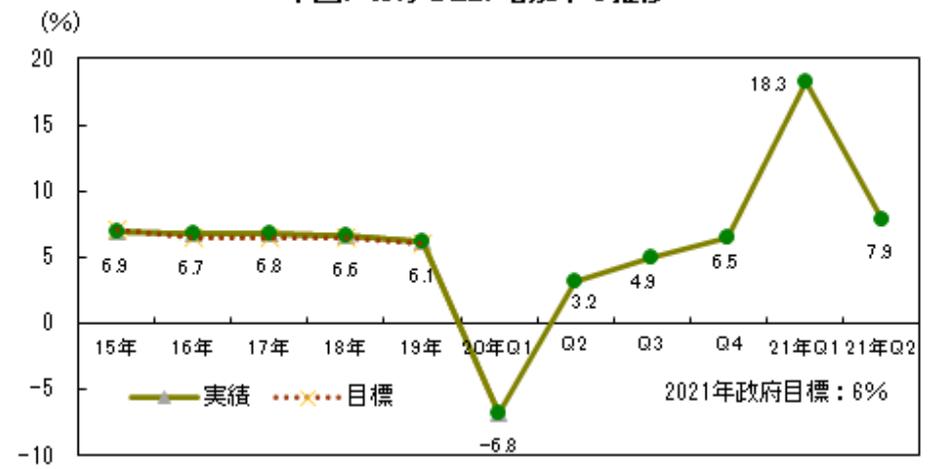
中国国家統計局は31日、8月の製造業購買担当者指数（PMI）が50.1だったと発表した。景気判断の基準値となる50は18カ月連続で上回ったが、前月から0.3ポイント下がり、5カ月連続の下落となった。内訳としては、新規受注が49.6と1.3ポイント下がり、1年6カ月ぶりに50を割り込んだ。新規輸出受注も1.0ポイント下落の46.7となった。生産は0.1ポイント下落の50.9となった。統計局は、「コロナ禍や自然災害の影響で原材料の供給が停滞し、一部企業が新規受注を減らした」と説明した。

【9/3~9/9】

◎ 1-8月の貿易額 3.4%増

中国税関総署の統計データによると、1-8月の貿易額は前年同期比3.4.2%増の3兆8,277億9,040万米ドル（約420兆2,500億円）となった。19年同期比でも3割近く増加した。国・地域別では、すべての主要市場がプラスを維持している。上位3位の貿易市場での貿易額はそれぞれASEAN 3.3%増、EU 3.2.4%増、米国 3.6.6%増となった。また、日本との貿易額は21.6%増で4位となった。新型コロナウイルス拡大による外需回復の流れが押し上げ要因とみられている。

中国におけるGDP増加率の推移



月別CPIの推移(消費者物価指数)



◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年10月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

中国の動向-主要トピックス②

りそな銀行上海駐在員事務所

【9/10～9/16】

◎ 主要経済指標伸び鈍化へ

中国国家統計局が発表した8月の主要経済指標はいずれも伸び幅が鈍化する傾向を見せた。8月の鉱工業生産額は前年同月比5.3%増加し、伸び幅は前月から1.1ポイント鈍化。1-8月の固定資産投資は前年同期比8.9%増で、1-7月から1.4ポイント鈍化し、今年初めて2桁を割り込んだ。8月の小売売上高は前年同月比2.5%増で、前月から6ポイント鈍化し、1年ぶりの低成長を記録した。一方で、オンライン小売りは19.7%増と堅調に推移している。

【9/17～9/23】

◎ 20年のクロスボーダー人民元取引過去最高を記録

中国人民銀行（中央銀行）によると、国内銀行が2020年に行ったクロスボーダー人民元取引額は28兆3,900億元（約481兆円）となり、前年から44.3%増加し、過去最高を記録した。海外投資家の人民元建て金融資産（株、債券、貸付債権、預金など）の増加が背景にある模様。また、人民銀が20年に国内外の企業に対して行った調査によると、78.8%の企業が国際取引に人民元の使用を検討していると回答し、比率は年々高まる傾向にある。

主要経済指標

<月次データ>

| 項目 | 単位 | 2020/10 | 2020/11 | 2020/12 | 2021/1 | 2021/2 | 2021/3 | 2021/4 | 2021/5 | 2021/6 | 2021/7 | 2021/8 |
|----------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 実質GDP成長率 | % | - | - | 6.5 | - | - | 18.3 | - | - | 7.9 | - | - |
| 消費者物価上昇率 | % | 0.5 | -0.5 | 0.2 | -0.3 | -0.2 | 0.4 | 0.9 | 1.3 | 1.1 | 1.0 | 0.8 |
| 都市部調査失業率 | % | 5.3 | 5.2 | 5.2 | - | 5.5 | 5.3 | 5.1 | 5.0 | 5.0 | 5.1 | 5.1 |
| 輸出額 | 10億ドル | 236.2 | 266.9 | 281.7 | 263.7 | 204.7 | 240.9 | 263.6 | 263.8 | 281.4 | 282.7 | 294.3 |
| 輸入額 | 10億ドル | 178.9 | 192.7 | 205.9 | 201.7 | 169.0 | 228.7 | 222.1 | 219.0 | 230.1 | 226.2 | 236.0 |
| 経常収支 | 100万ドル | - | - | 273,980 | - | - | 69,446 | - | - | 122,246 | - | - |
| 外貨準備高 | 10億ドル | 3,128.0 | 3,178.5 | 3,216.5 | 3,210.7 | 3,205.0 | 3,170.0 | 3,198.2 | 3,221.8 | 3,214.0 | 3,235.9 | 3,232.1 |
| 主要政策金利 | % | 4.35 | 4.35 | 4.35 | 4.35 | 4.35 | 4.35 | 4.35 | 4.35 | 4.35 | 4.35 | 4.35 |
| 対ドル為替レート | 人民元 | 6.70 | 6.60 | 6.54 | 6.47 | 6.46 | 6.51 | 6.52 | 6.42 | 6.43 | 6.48 | 6.48 |

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

◎ 注意事項

本資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、本資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年10月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

“上海下午茶”（上海からティータイム）

りそな銀行上海駐在員事務所

○まんじゅうで詐欺防止訴え

先日、山東省青島市にある愛心食堂で、警察官たちが管轄エリアの住民たちに対して、電話・メールなどの手段による振り込み詐欺の防止対策に関するミニセミナーが行われました。参加者の多くは年配の方々なので、警察署は重さ1.5kgのまんじゅうを景品としてたくさん用意しました。まんじゅうの上には食用色素で反詐欺の宣伝メッセージが添えられており、担当警察官は、まんじゅうを家に持ち帰り、家族みんなで分けて振り込み詐欺の被害防止について話題を作ってほしいと語りました。

少し前ですが、まんじゅうだけではなく、たまごに反詐欺メッセージをプリントしてコミュニティーの人々に配布したケースもあり、色んな方法で啓発活動が行われています。



○「中国農民豊穫節」について

中国では23日、豊作を祝う「中国農民豊穫節」を迎えました。「中国農民豊穫節」は2018年に新たに定められた全国の祝日であり、今年は4回目になります。毎年決まった日ではなく、旧暦二十四節分の「秋分」の日に合わせます。

この日には、食糧の大切さを意識したイベントが行われるほか、三農（農業、農村、農民）の発展に力を貢献した学者、模範労働者などの方々に敬意を表す行事も多く行われます。

ところで、2020年3月までに、中国農村部のネットユーザー人口は2億5500万人に達しており、近年、ECによる農家支援キャンペーンが盛んに行われています。ネットに縁が遠そうな農民も確実に「デジタル経済+農業」という発展モデルの恩恵を受けているようです。



◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年10月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆タイ中央銀行が発表した2021年7月の主要経済指標（速報値）によれば、タイ経済への新型コロナウイルス感染拡大の影響はより鮮明となった。個人消費指数は前年同月比8.1%下落。半耐久消費財は伸びたが、耐久消費財、非耐久消費財、サービスはいずれも減少した。民間投資指数は同11.6%上昇。機械・設備分野と建設投資分野がともに前月比低下した。建設現場での新型コロナ抑制策と国内需要の低迷が続いている。工業生産は世界的なコンテナ不足と半導体不足、新型コロナ抑制に伴う工場の操業の一時停止等で減少した。ワクチン接種済みの外国人旅行者を隔離なしで受け入れる観光サンドボックス政策の開始で、外国人旅行者は前月比若干回復した。公共投資は増加した。

◆タイ商務省によると、2021年7月の輸出額は前年同月比20.3%増の226億5,083万米ドルと、5カ月連続で前年同月を上回った。前年同月に新型コロナウイルス感染拡大で輸出が落ち込んだ反動や世界的な需要の回復等が背景にある。工業製品は同18.0%増で5カ月連続のプラス、農産物・加工品の輸出は同24.3%増と8カ月連続のプラスとなった。自動車・同部品、鉄鋼・同製品、ゴム製品、コンピューター・同部品、石油関連製品等の輸出も増加した。冷凍・冷蔵庫、内燃エンジン・同部品等は減少。市場別で、米国は最多。中国、日本、欧州連合（EU）、東南アジア諸国連合、CLMV諸国（カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム）向けは増加したが、

オーストラリア向けは11カ月ぶりに減少した。7月の輸入額は同45.9%増の224億6,737万米ドルで、貿易収支は1億8,346万米ドルの黒字となった。一方、7月の対米ドル・パーツ相場は平均で1米ドル=32.61パーツで、前月の31.45パーツ比パーツ安だった。

◆タイ商務省が発表した8月の一般消費者物価指数（CPI）は、前年同月比0.02%低下し、5カ月ぶりに前年同月を下回った。食品・飲料は同1.48%下落した。非食品は同0.93%上昇。また、今年1～8月のCPI平均値は前年同期比0.73%上昇した。一方、価格の変動幅が大きい生鮮食品とエネルギーを除いたコアCPIは0.07%上昇。

◆タイ国家経済社会開発委員会（NESDC）の統計によると、2021年第2四半期（4～6月）の国内総生産（GDP）成長率は前年同期比7.5%増。第1四半期の同2.6%減から大幅に伸びた。新型コロナウイルス流行の影響で落ち込んだ前年同期の反動で6四半期ぶりプラス成長。一方、2021年通年のGDP成長率予想は0.7～1.2%増に下方修正した。国内の新型コロナウイルス感染が深刻化し、輸出や製造業に及ぼす可能性があるほか、家計債務の拡大、失業者の増加等がマイナス材料とみられる。

主要経済指標

<月次データ>

| 項目 | 単位 | 2020/10 | 2020/11 | 2020/12 | 2021/1 | 2021/2 | 2021/3 | 2021/4 | 2021/5 | 2021/6 | 2021/7 | 2021/8 |
|----------|--------|---------|---------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 実質GDP成長率 | % | - | - | -4.2 | - | - | -2.6 | - | - | 7.5 | - | - |
| 消費者物価上昇率 | % | -0.5 | -0.4 | -0.3 | -0.3 | -1.2 | -0.1 | 3.4 | 2.4 | 1.3 | 0.5 | -0.0 |
| 失業率 | % | 1.9 | 1.9 | 1.9 | 1.9 | 1.9 | 2.0 | 2.0 | 2.0 | 1.9 | 1.9 | - |
| 輸出額 | 100万ドル | 19,377 | 18,960 | 20,076 | 19,707 | 20,219 | 24,222 | 21,429 | 23,058 | 23,699 | 22,651 | - |
| 輸入額 | 100万ドル | 17,330 | 18,880 | 18,958 | 19,909 | 20,212 | 23,512 | 21,247 | 22,262 | 22,754 | 22,467 | - |
| 経常収支 | 100万ドル | 674 | -1,294 | -574 | -903 | -1,347 | -1,168 | -1,298 | -2,624 | -1,305 | -680 | - |
| 外貨準備高 | 10億ドル | 248.5 | 253.5 | 258.1 | 256.8 | 253.9 | 245.5 | 250.4 | 251.8 | 246.5 | 248.0 | 252.0 |
| 主要政策金利 | % | 0.50 | 0.50 | 0.50 | 0.50 | 0.50 | 0.50 | 0.50 | 0.50 | 0.50 | 0.50 | 0.50 |
| 対ドル為替レート | パーツ | 31.3 | 30.5 | 30.1 | 30.0 | 30.0 | 30.8 | 31.3 | 31.3 | 31.5 | 32.6 | 33.1 |

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レポ金利

出所：Bloomberg

◎注意事項
 本資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年10月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

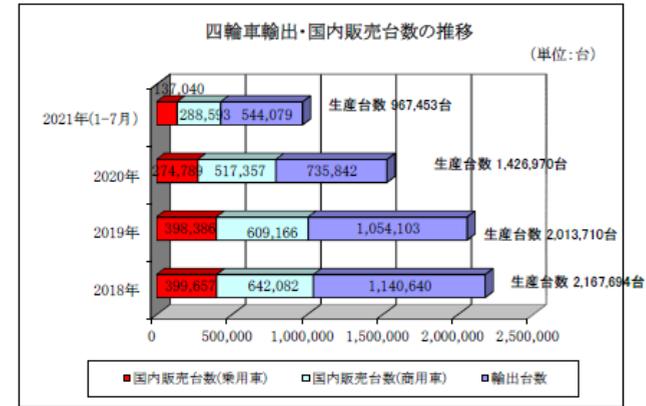
タイにおける自動車産業の動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

タイにおける自動車産業の動向

出所:タイ工業連盟 (FTI)

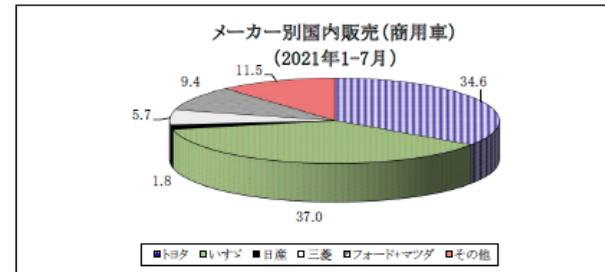
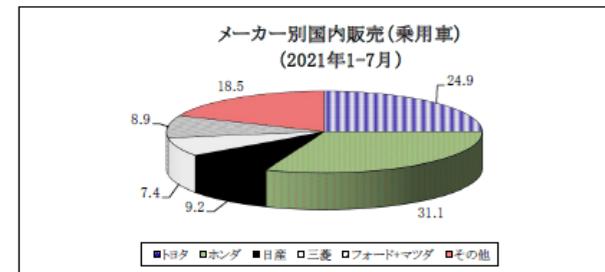
| | | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 2021年 (1-7月) | 前年同期比 (%) | 7月 | |
|-------------------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------------|--------------|---------|---------|
| 【台数】 (台) | | | | | | | | |
| 四輪 | 生産台数 | 乗用車 | 884,609 | 804,340 | 542,437 | 342,180 | 130.1 | 45,203 |
| | | 商用車 | 1,283,085 | 1,209,370 | 884,533 | 625,273 | 144.6 | 77,649 |
| | | 合計 | 2,167,694 | 2,013,710 | 1,426,970 | 967,453 | 139.1 | 122,852 |
| | 国内販売台数 | 乗用車 | 399,657 | 398,386 | 274,789 | 137,040 | 99.1 | 16,689 |
| | | 商用車 | 642,082 | 609,166 | 517,357 | 288,593 | 115.6 | 35,753 |
| | | 合計 | 1,041,739 | 1,007,552 | 792,146 | 425,633 | 109.7 | 52,442 |
| 輸出台数 | | 1,140,640 | 1,054,103 | 735,842 | 544,079 | 136.0 | 70,590 | |
| 二輪 | 生産台数 | 2,063,076 | 1,948,480 | 1,615,319 | 1,089,003 | 135.9 | 83,690 | |
| | 国内販売台数 | 1,788,323 | 1,718,587 | 1,516,096 | 987,902 | 113.7 | 115,623 | |
| | 輸出台数 | 886,275 | 948,839 | 727,152 | 574,183 | 145.3 | 87,068 | |
| 【完成車輸出金額】 (百万バート) | | | | | | | | |
| 四輪 | | 594,810 | 545,968 | 410,912 | 314,139 | 144.9 | 43,431 | |
| 二輪 | | 61,654 | 69,933 | 85,802 | 48,055 | 140.6 | 6,318 | |



【メーカー別国内販売台数】

出所:トヨタ自動車

| | | 2018年 | シェア (%) | 2019年 | シェア (%) | 2020年 | シェア (%) | 2021年 (1-7月) | 前年同期比 (%) | シェア (%) | 7月 |
|-----|-----|-----------|---------|-----------|---------|---------|---------|-----------------|-----------|---------|--------|
| トヨタ | 乗用車 | 112,394 | 28.1 | 117,708 | 29.5 | 68,152 | 24.8 | 34,170 | 97.7 | 24.9 | 4,467 |
| | 商用車 | 202,719 | 31.6 | 214,672 | 35.2 | 176,164 | 34.1 | 99,981 | 130.2 | 34.6 | 12,565 |
| | 合計 | 315,113 | 30.2 | 332,380 | 33.0 | 244,316 | 30.8 | 134,225 | 120.1 | 31.5 | 17,040 |
| いすゞ | 乗用車 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0.0 | 0 |
| | 商用車 | 177,864 | 27.7 | 168,215 | 27.6 | 181,194 | 35.0 | 106,845 | 116.7 | 37.0 | 13,680 |
| | 合計 | 177,864 | 17.1 | 168,215 | 16.7 | 181,194 | 22.9 | 106,845 | 116.7 | 25.1 | 13,680 |
| ホンダ | 乗用車 | 95,793 | 24.0 | 96,154 | 24.1 | 77,419 | 28.2 | 42,651 | 107.3 | 31.1 | 6,065 |
| | 商用車 | 32,497 | 5.1 | 29,679 | 4.9 | 15,622 | 3.0 | 7,022 | 92.1 | 2.4 | 893 |
| | 合計 | 128,290 | 12.3 | 125,833 | 12.5 | 93,041 | 11.7 | 49,673 | 104.9 | 11.7 | 6,958 |
| 日産 | 乗用車 | 43,991 | 11.0 | 35,809 | 9.0 | 27,120 | 9.9 | 12,546 | 84.9 | 9.2 | 1,252 |
| | 商用車 | 28,403 | 4.4 | 28,605 | 4.7 | 17,438 | 3.4 | 5,232 | 48.8 | 1.8 | 499 |
| | 合計 | 72,394 | 6.9 | 64,414 | 6.4 | 44,558 | 5.6 | 17,778 | 89.7 | 4.2 | 1,751 |
| 三菱 | 乗用車 | 31,594 | 7.9 | 38,879 | 9.8 | 22,363 | 8.1 | 10,167 | 83.6 | 7.4 | 1,205 |
| | 商用車 | 52,966 | 8.2 | 49,365 | 8.1 | 35,046 | 6.8 | 16,566 | 89.5 | 5.7 | 2,000 |
| | 合計 | 84,560 | 8.1 | 88,244 | 8.8 | 57,409 | 7.2 | 26,733 | 87.1 | 6.3 | 3,205 |
| その他 | 乗用車 | 115,885 | 29.0 | 109,836 | 27.6 | 79,735 | 29.0 | 37,506 | 102.6 | 27.4 | 3,700 |
| | 商用車 | 147,633 | 23.0 | 118,630 | 19.5 | 91,893 | 17.7 | 52,947 | 118.9 | 18.5 | 6,116 |
| | 合計 | 263,518 | 25.4 | 228,466 | 22.7 | 171,628 | 21.8 | 90,453 | 111.5 | 21.2 | 9,816 |
| 合計 | 乗用車 | 399,657 | 100.0 | 398,386 | 100.0 | 274,789 | 100.0 | 137,040 | 99.1 | 100.0 | 16,689 |
| | 商用車 | 642,082 | 100.0 | 609,166 | 100.0 | 517,357 | 100.0 | 288,593 | 115.6 | 100.0 | 35,753 |
| | 合計 | 1,041,739 | 100.0 | 1,007,552 | 100.0 | 792,146 | 100.0 | 425,633 | 109.7 | 100.0 | 52,442 |



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。